

No.	(1) 交付対象事業の名称	(2) 実績額 (単位：千円)	(3) 本事業における重要業績評価指標 (KPI) ※目標年月 (R3.3)			(4) 本事業終了結果			(5) 実績値を踏まえた事業の今後について		
			指標	指標値	単位	実績値	事業効果	事業担当課による評価	今後の方針	今後の方針の理由	
			①	「南紀熊野ジオパーク」を拠点とした地域しごと創生-広域連携 (2団体)	57	1	南紀熊野ジオパークセンター来館者数 (平成30年 0千人)	72	千人	50	地方創生に効果があった (参考) 令和元年度：35千人
2	ガイド派遣依頼に基づくガイド案内者数 (平成30年 853人)	1,153	人			1,065	地方創生に効果があった (参考) 令和元年度：694人	オンラインツアーの実施など、コロナ禍でもガイド利用を促進する取り組みを行い、目標値をほぼ達成できた。	事業の継続	ガイド案内者増につなげるため、教育機関や旅行会社へのPRを行うとともに、オンラインツアーの実施などコロナ禍でもガイドを利用してもらえる取り組みを行っていく。	
3	串本町内周遊バスの利用者数 (平成30年 0人)	5,500	人			1,032	地方創生に効果があった (参考) 令和元年度：868人	コロナ禍での人流減少や約2ヶ月の運休期間もあり目標値を下回っているが、利便性向上のため7月にダイヤ改正や停留所追加を行った結果、夏季期間の利用率は向上した。	事業の継続	利用者増につなげるため、西日本旅客鉄道株式会社と協力し、プロモーション動画や広告媒体を活用したPRを実施していく。	
4	「南紀熊野ジオパーク」エリアに宿泊する外国人宿泊者数 (平成30年 201千人)	263	千人			17	地方創生に対する効果不明 (参考) 令和元年度：166千人	コロナ禍で海外との往来が制限され、外国人宿泊者数は激減した。	事業の継続	引き続き海外向けの情報発信に注力するとともに、今後、新型コロナウイルス感染症の終息のタイミングに合わせて、往来が再開する国・地域から段階的に海外プロモーションを再開する。	